
仮面ライダーw × ディケイド ～平成オールライダーvs大ショッカー

城戸 智

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーw×ディケイド 〜平成オールライダーvs大ショッカー

【Nコード】

N4549Q

【作者名】

城戸 智

【あらすじ】

ここ風都、風都タワーが風車みたいに回っていて、綺麗なところ……

この前、仮面ライダーディケイドの士が来た時から、事件が多発、その真相突き止めようとして、フィリップで検索すると「士が仲間を集めている」という情報が入ってきた……。なので、翔太郎とフィリップは、土の世界に行く事に……。

ディケイドの世界に言った、翔太郎とフィリップは、土になんて仲

間を集めているのかと聞き、その真相はくシヨツカーが　　を作
っているという事だったゝなので、違う仮面ライダーの助けを求め
るべく、クウガの世界・アギトの世界・龍騎の世界を歩き回り、仲
間を集めていき、シヨツカーを、みんなで倒すそれが、この物語の
しゅしんなのだ

ここは、wの世界（前書き）

よろしくお願いします。

ここは、wの世界

ここ風都では、このごろおかしいことが次々と起こるのであった・
・
・
・

この前、士が来た時から、なぜか起こりはじめたのであった！

翔太郎「フィリップ、気になる事があるから、調べてくれないか？」

フィリップは、静かにうなづく

翔太郎「キーワードは、＜門矢 士＞」

フィリップ「もう1つキーワードを」

・
・
・
・
・
・
・
・

翔太郎「次のキーワードは、＜風都＞」

フィリップ「ビンゴだ」

フィリップが、キーワードに適した本を読んでいた。

翔太郎「フィリップ?????」

・
・
・
・
・
・
・
・

フィリップ「士たちが、仲間を集めているらしい、なにかと士が

戦うとこつちの世界にも影響が出るらしい」

ってか、何で仲間を集めているんだ???

もしや何かの前兆???世界の滅亡だったりして……!!!!
地球が割れるとか???ドーパントが5億体も出現とか?シヨツカ
ーが、人間に変身して、人を襲っているとか?まあ、そんな事はな
いとして……(多分)

フィリップにそういうことを言うと、検索バカさが出てしまうか
らな……

翔太郎「ディケイドの世界に行つて土に聞いてみるか???」

フィリップ「それが、1番いい方法だと思うが……」

思っているよりも行動する!!!

行くぞ!!!

フィリップ「翔太郎!ちょっと僕テレパシーとかが、使えないか
ら……」

!?

……

ってか、何で分かったんだ???テレパシーが、使えないって言っ
ていくせに

だいたい、翔太郎は「行くぞ!相棒」・「行くぞ」という時に、左

手を上げて人差し指で、空を指すから分かりやすいそれだけの事だ・
・・・観察力は、僕のほうが上だな

翔太郎「フィリップ1ついいか??？」

フィリップは、ゆっくりとうなずく

翔太郎「で、デイクイドの世界には、どうやって行けばいいんだ??？」

そんな事も分からのか??？じゃあどうして、知っているみたい
に「行くぞ」っていう合図を僕に出したんだ??？それだけが、理
解不能だだが、翔太郎の事だし、まあいいとしようか

フィリップ「もう言ってしまうが、多分もうちょっとしたら、仮
面ライダーの世界と仮面ライダーの世界を区切る境界線が、現れる
はずだ・・・その境界線を越えて、デイクイドの世界に行こうか
!!」

翔太郎はうなずいていた・・・

0分後・・・

翔太郎「フィリップ!!!!!!で・・・・・・いつ現れるんだよ!
!!その境界線とやらは・・・寝てでしまっぞ」

偉そうな口を利くな、印象が悪くなってしまうだろ

フィリップ「もう1回調べてみるから、待っていてよ翔太郎」

！？

翔太郎「キーワードは＜仮面ライダーの世界の境界線＞次のキーワードは、＜その境界線が出る時間＞」

フィリップは、ビンゴといったそうな、顔をしていた

フィリップ「あと、１７分後だ．．．．．ちよつと検索方法を間違ってしまったらしい」

！？

フィリップでもそんな事があるのか．．．．．違う事に氣をとられているとそういうことがたまにある、そのことは、今までに３～５回あるだから、分かりきっていることなのだ

翔太郎「１回事務所に帰ろう、亜樹子にばれないようにな、ばれたら、大変な事になってしまうから」

yes！！！！とでも言いたそうにしていたフィリップであった．．．
．．．

ここは、wの世界（後書き）

多分2日に1話ぐらいの更新スピードなので、了承ください

ディケイドの世界へ

フィリップ「あと少しで、この事務所のところに境界線が現れるはず……だ」

……自信があまりないな……

約10分後……

フィリップ「現れた!!!あの、シルバー色の壁みたいなのが境界線だ」

なんか。アニメか、小説の中の話みたいだな……。でも、これも小説の中の話か……。俺は、そんな事いう資格はないか……。

フィリップ「壁の向こう側に行こう」

といい、フィリップを先頭に、土の世界「仮面ライダーディケイドの世界へといったのであった……

ディケイドの世界……

夏美「土くん!!!!!!何で、仮面ライダーの仲間を集めているんですか???」

……

夏美「土くん!!!!!!、私にも言えないことなんですか??、で

も、教えてください」

士「まあ、そんなことだ!」

ガクッ!!!

夏美「もう知りませんからね!!!!!!」

えっ!!!!

士「えつとだな〜」

トントン

助かった〜、この俺を助けてくれた、救世主はだあれだ????

フィリップ「よっ!!!!!!士」

まさかの、フィリップ!

翔太郎「はろ〜!士!夏美ちゃん、ユウスケ」

.....

士「なんで、俺の世界に来たんだ??」

!!!!

フィリップ「まあ、士!大体お前のせいだからな」

何で？？俺？

土「まあ、いい！俺、仮面ライダーの仲間を集めているんだ！！
！フィリップと翔太郎も、仲間に入らないか？」

これは、さそいなのか??

「土、ちあてじいおる。」

士が、悪魔に見えてきた

フィリップ「もしや、大シヨツカーが、軍団を作っているとか・

あつたり〜

土「まあ、一応正解だ!!!」

まあ、フィリップには、地球の本棚があるし、普通に分かるか・・

士「まだ、他の平成仮面ライダーのみんなに声をかけていないんだ！……だから、今から他の仮面ライダーの世界に行くんだが……フィリップと翔太郎たちも一緒に行くか？？」

俺達も行くのか??

何故、僕は行かなくてもいいでしょ

夏美「私は、ついていきますよ」

でも……………

！？

フィリップ「じゃあ、夏美ちゃんがいるんだよね……………だった
ら、変身中に僕の体よろしく頼むよ」

おお、そういう手があったのか

士「なら、早く行くぞ！！！！まずカブトの世界だ！！！！！！」

！？

カブトの世界……！

士「やっと、着いたようだな」

………眠い！

フィリップ「ところで、天道総司は？」

いない……！

翔太郎「天道さんの家ってどこなんだ？……？」

多分、誰も知らないと思うが……

夏美「私知っていますよ……！」

ガクッ！

マジで、知っているのかい！

夏美「私、前、カブトの世界へ行ったときに、天道さんに、住所教えてもらったんですけつてか、年賀状も出しました！」

その年賀状いらないから

じゃあこれで、天道さんの家にいける！

で、どこなんだ？

士「寝て待てば、どっから来るだろ」

・・・・・・・・・・・・・・・・

その考え方やめようか・・・

フィリップ「家に行つて、いなくても、そこで待っていたほうが、
1番簡単だが・・・」

その方法がよさそうだな・・

士「夏美！住所を教えてくれ」

嫌です

夏美「士くんには、教えたくありません！！！！フィリップくん
！行き方を検索してみてください！！」

分かった・・・でも・・・

フィリップ「キーワードを」

えっと

夏美「〒	ー	××	×	と入力してみ
て下さい」				

なんか、夢のような住所だな

翔太郎「どうだ？フィリップ道順は、分かったか??」

コクリとうなずく

フィリップ「僕についてくれば、総司の家に着けるはずだ」

『はずだ』と着く時は、なにかとフィリップは、間違えるはずだから……一応心配なんだよな

まあ、一緒に行ってみるとするか……

な……！……信じてみるとするか……

総司の心に響く

総司の家・・・・・・・・

夏美『前に来た時とは、違う家ですけど、新築でもしたのですか
??』

えっ？

違うの?????

翔太郎『やつちゃったな~~~~~フィリップ』

はああ~~~~どうするんだよ!!

フィリップ『もう1度検索してみる・・・・・・・・今度は絶対に大丈夫だ』

意地っ張りだったけ？フィリップって

翔太郎『キーワードは<天道 総司の家>』

『次のキーワードは<夏美ちゃん>が言っていた、住所>』

!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?

フィリップ『総司の家は、向かい側だ!?!!』

ガクッ!?!!

それなら、そうと早く見つけてくれればよかったのに……でも、表札みれば、よかったかもしれない

翔太郎『天道』っていう表札があつたかよ！ほらここに』

士『……………』

こういうときに、ブレイドの世界の辰巳シンジが、自分の事を『チーズ』と呼ぶんでいるのを思い出してしまう士……………

ユウスケ『……………』

夏美『士くん！妄想しないでください』

おい！！お前こそ、妄想していないか？俺は、昔の事を思い出していただけだ…

士『まあいい！『チーズ』という言葉が、懐かしい気がする』

チーズ？食べ物のことか？もしや

あつ！！あれか……………

ユウスケ『シンジが言っていた、『チーズ』』

おいおいユウスケちょっと待て、あの『チーズ』はシンジだから、許してやったんだ、だが、ユウスケは許さないぞ

夏美『で、翔太郎くんたちが、見当たらないんですけど……』

ガチャ

翔太郎『よっ！！士！何で、総司の家の前で、立ち話しているんだ？』

それは、置いといて……

ってか、総司の家の中に行っていたんかい！！！！

フィリップ『総司いたよ！士行ってくれば？』

それも、そうだな

ガチャ

士『勝手に上がるぞ！』

！？

総司『士どうしたんだ？また、この世界へきたのかい？』

士『シヨツカー』敵が、大軍を作っているらしい！』

！？！？！？！？！？

翔太郎『協力してくれないか？総司……罪のない民間人が殺されても良いって言うのかよ！！！！１人でも、仮面ライダーがいたら、民間人がすこしでも、守れるんだぞ！！』

翔太郎の熱がこもるな

.....

総司『でも.....』

フィリップ『君が居ない間は、その他の仮面ライダーが守るんじゃないの？それに、君がよければ、デンライナーにのって、時間を戻してもらったらどうだい？』

それもそうだな

総司『分かった！！協力しよう！！！！』

よし！！！！！！

こうして、仮面ライダーカブトⅡ天道 総司が大ショッカー軍団を倒すため、立ち上がったのであった。（民間人を守るためにも）

キバの世界へGOー！

士『次は、仮面ライダーキバの世界へ行こうと思う』

！？

ユウスケ『次は、キバ？龍騎じゃなくて？？』

ユウスケは、どんなことを想像していたんだ？？

夏美『ってことは、紅 渡くんのいる世界ですね』

もしかや・・・・・・・・

翔太郎『夏美ちゃん総司のやつも知っていたように、渡のも知っているわけ？』

・・・・・・・・・・・・・・・・

夏美『はい！！！！年賀状も出しましたよ』

やつぱり、知っていた・・・・・・・・しかも、年賀状までも

フィリップ『検索準備が、整ったよ！』

もう、準備しているんかい

夏美『では、住所いいますよ

？？ー？

ー？

で

す』

や
や
こ
し
い
な
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

翔太郎「キーワードは、＜紅渡の家＞次のキーワードは＜
 ？？？＞で、最後のキーワードは＜道＞」

えっとうとう道順出たのか？

フィリップ「!?えっと、『FNTK』という本に書いてある」

フィリップは、その『FNTK』という本を読んでいた……

フィリップ「目の前のあの古い大きな家だ」

! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ?

土・早くないか？家見つけるの

翔太郎・夏美「それは、おいとけよ（というて）」

同じ事言っているし

総司「あのさ〜〜〜〜！ 渡くんさっきバイクで出て行っただよ！」

! ? ! ? ! ?

さっき通ったバイクが?????

土「面倒なんだが、で、どうするんだ？」

翔太郎『行け！渡を探して来い！！！！』

おっ！！！！翔太郎クワガタ型の奴を使っただんな……

士『めんどくさい……まあ、なんとかなるだろ！！！！この様子じゃ、寝て待てば、良いんじゃないのか？』

ブロンブロン………

！？！？！？！

渡『翔太郎！なんだ？？このクワガタ……俺は、カブトムシの
ほぅが好きなんだけどな……』

今は、そんな事聞いているんじゃない！！！！

士『バカにも、ほどがあるぞ！渡！！！！じゃあ、そのことを許
してやるから、俺の願いを聞けよな！』

何だ？

一応、人物紹介！

一応、人物紹介、これから出る人の紹介もします

左 翔太郎

ジョーカー・メタル・トリガーメモリを持つ

仮面ライダーW ボディースайд

フィリップ

サイクロン・ヒート・ルナ・ファングメモリを持つ

門矢 士

世界の破壊者と呼ばれる人物だが、心は優しく、正義に燃えている？

仮面ライダーディケイド

光 夏美

士が、いすわっている写真館の主人の孫、光家秘伝の笑いのツボで、士や、ユウスケなどを笑わせるのだ

仮面ライダーキバ

小野寺 ユウスケ

士のツンデレ系ちは違い、お人好しで、それだけが、とりえと言われている

仮面ライダークウガ

天道 総司

超といってもいいほど、マイペースで、だけれども、たまにいいことも言う

仮面ライダーカブト

紅 渡

ちょっとおつちよこちよい、で、考え事が多い

仮面ライダーキバ

火野 映司

ユウスケとおなじく、おひとよし、いざとなると、アंकといっしょに戦いコアメダルをグリードやヤミーから取る

仮面ライダーオーズ（OOO）

海東 大樹

お宝が大好き！！！！盗むことが、得意であだ名は怪盗の海東大樹！！！！

仮面ライダーディエンド

響 大介

推理が得意な仮面ライダー

仮面ライダー響鬼

剣崎 一真

士のことを『チーフ』と呼ぶべきところを、間違えて、『チーズ』
と呼んでしまう一面が・・・

仮面ライダーブレイド

野上 良太郎

不幸少年で、世界も見放したほど

仮面ライダー電王

契約したイマジン

モモタロス・ウラタロス・キンタロス・リュウタロス

城戸 真司

新聞を作るカメラマン

仮面ライダー龍騎

津上 翔一

ちよつと????系で、わからないこともたくさんある

乾 巧

ツンデレ系で、ツッコミがた！ちよつと大変だけど、笑顔！！

仮面ライダー555

キバ！

士『・・・・・・・・・・・・・・・・』

翔太郎『よ！！キバット！お久しぶりだな！』

聞いたほうがいいのかな？あの事を

士『キバット・・・・・・・・キバーラっていうコウモリ型のやつ』女の
子らないか？』

キバット『キバーーーーーラ?????・・・・・・・・妹だ~~~~~』

!?!?!?!?!?妹なら、早く気づけよ!!!!

ってか、妹の事忘れそうになるか???普通に考えて・・・・・・・・

士『静かにしろ!!!!みんな！喋るな!!!!』

・・・・・・・・・・・・・・・・

総司『ん???夏美ちゃん!!!!抑えて・・・・抑えて・・・・士
にやつちゃ駄目だよ!!!!ってか、士!!!!逃げろ!!!!夏美ちゃん
だから、駄目だつてば~~~~』

!?!?!?!?!?!!!!

笑いのツボか・・・俺には、逃げるしか方法はない・・・

夏美『土くん！！逃げないください！おさなければ、気がすみません』

俺は、気がすむまでやらされるのか???

渡『夏美ちゃんストップ・・・俺達も危険にさらされるからね・・・とめないと・・・ということで、やめましょうか』

渡のおかげで、助かったのか？

夏美『渡くんや、総司さんには、関係ありません！！土くんには、みなさんに冷たくしていた罰をあたえているんです』

そついわては、やめるしか、方法がないよな

土『おいおい！！！！やめろよ』

ユウスケ『夏美ちゃんストップ！！土は、みんなが強くなるために、わざと冷たくしているんだよなっ！！！！土』

・・・

土『そ、そ、そうだな・・・』

????????????????

渡『おい！！！！土、総司と俺さきに、お前の世界へ行ってもいいか????あとで、どうせ戦うんだしな』

士『うん、先に行ってる！！あとで、俺たちは、仮面ライダーの仲間たちをつれて、行くからまってるよ！！！！』

いい事いったと思ったら

士『写真館で、食い漁るなよ』

おいおいおいそれをいうと、夏美ちゃんが動き出すんだから・・・

光家秘伝・・・笑いのツボ

グイッ

士・ユウスケ『っはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっは』

笑いすぎではありませんか？？？こっちが、気持ち悪いです

士『夏・・・っはっはっはっはっはっは夏マロンっはっはっはっはっはっはっはとめてくれ！っはっは』

ユウスケが先ですよ！！！！士くんは最後です

グイッ

ユウスケ『ああああ、治まった』

グイ

夏美「私に感謝してくださいね、それに、ユウスケにもですよ」

はいはい

渡「じゃあ、行くから」

「じゃあ、あとでな！」

2人は、ディケイドの世界へといった

土 次の世界は、クウガの世界だ

? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? !

ユウスケ「俺の世界? ? ?」

土「一応言っておくけど、違うからね、お前の世界じゃないからね」

そうなのか……

五代さんとユウスケ（前書き）

震災で被災しておりまして投稿があんまり出来ませんでした。
すみませんでした。

五代さんとユウスケ

クウガの世界・・・・・・・・・・

士『夏美！！！！五代』五代雄介の住所は知らないのか？』

・・・・・・・・・・

ユウスケ『五代さんって、俺と同じクウガなのか？』

夏美『はい！！！！クウガです！！でも、ちょっと違いますけどね！』

何？？？無視？？？みたいなもの？？それに、ちょっと違っつてクウガなんだから俺と同じじゃなか！！！！

そんな事やっているから、後ろに敵が来ているじゃないか

士『何で、反応しないんだよ！！！！ってか、分からないのか？』

夏美『わっ！！！！士くん敵が後ろに居ました！！！！』

やっと気づいたか・・・・・・・・気づくまでに30秒少々かったな

士『ユウスケ変身するぞ！！！！変身！』

<仮面ライド デイクイド！>

！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！

?!?

雄介『敵???変身しなきゃ!!!!変身!』

仮面ライダークウガⅡ五代 雄介来たし……ってか、遅いよ俺もう変身してしまったじゃんか!

夏美『あれが、五代さんですね』

夏みかんが変になってしまった……

雄介『誰だ??お前……もしやディケイド』

士『通りすがりの仮面ライダーだ覚えておけ!!!』

……. そんな言い方ないと思うけど

雄介『一緒に戦ってもらっているし……お前がディケイドでも、仮面ライダーなら仲間だ!!!』

そんな答え方ってアリなのか???

敵『ってか相手になりやがれ~~~~』

今まで敵は何をやっていたのかは不明である

翔太郎『フィリップ……敵きれたか??』

フィリップ『翔太郎……そのようだね!!!!これはおもしろそうだ!!!!』

Wの2人は、見物客みたいになっていた……

雄介『おりゃあああああああああ!!』

士『は〜〜〜こういうときには、任せるのが一番なんだが……
そうやると夏美に笑いのツボやられるしな……』

夏美・翔太郎・フィリップは、クウガの『五代雄介さんはちゃんと敵と戦っているのに、士は何をやっているんだというふうに思っていた……』

ユウスケ『士……』

飽きられたというふうに言われる士

フィリップ『士!! 後ろ見たほうがいいと思うけどね!!』

士が後ろを見ていると敵がもう2体居た……それもなぜかブレイドの世界の敵アンデットであった?

こんな展開アリなのか??? それだけはいわせてもらおう!!!

士『こういうときには……これが1番』

<仮面ライダー キバ!>

雄介『違う仮面ライダーになった???』

そう思うのは当たり前って言うか、人並み……いい感覚し

ているよ!!!

士『面倒だ!!!さっそく必殺技を使うぞ!!!』

使っちゃう???このタイミングで?????

<アタックライド キバ>

<ダークスネムーンブレイク>

翔太郎『あとは、五代さんの敵だけだ・・・!!!』

雄介『おりゃあああああああああ』

一応説明をする・・・クウガ!!五代さんは、敵に今のところ、必殺技は使っていないくて、かかとおとし・パンチ・キックで敵の体力を奪っているのであるってかナイスな五代さんなのであった

ユウスケ『俺も戦う!!!見てられない!!!』

士『止める!!!あれは、五代の戦いなんだ・・・邪魔はするな』

パタパタパタパタパタ・・・(白旗)

敵『降参降参降参!!!x100000000』

パタパタパタパタパタ

翔太郎『五代さんが勝った!!!!!!』

パタパタパタパタ

夏美『敵!!!!!!!!!!パタパタパタパタうるさいです!!!!!!
静かにしてください!!!!!!』

その間に・・・敵は逃げていったのであった

五代さん『あっ!!逃げちゃった・・・まあいつか』

そこは追いかけようよ!!!!ロボットか何かでさ・・・そこが
五代さんのいいところなんだけどさ!

2人は変身を解いた

士『五代雄介・・・よろしく!』

雄介『よろしく・・・で、君の名前は??』

士『門矢 士仮面ライダーディケイドだそれに、こいつが、夏み
かんでこいつがユウスケ』

ディケイド・・・

夏美『本名は光 夏美です。仮面ライダーキバラーです。そして
ユウスケというのは、本名小野寺ユウスケで仮面ライダークウガで
す』

俺と同じクウガ?????ありえない・・・

五代『よろしく!!!士!夏美ちゃんユウスケ!そしてこちらが?

『?』

.....

翔太郎『それに、俺は左 翔太郎！探偵の仮面ライダーだ、そして、こいつが俺の相棒の』

フィリップ『フィリップだ!』

そこだけは言うんだ・・・

雄介『よろしく!!翔太郎！フィリップそして!!!!士！夏美ちゃん!!ユウスケ!』

敵総勢1億を超え

意外に五代さんって気楽なんだな・・・まあそんな事は置いといてもいいとして・・・

今は一応、光写真館なんだよな・・・

翔太郎「クウガ」五代雄介を仲間に入れたら、次は、どの仮面ライダーの世界に行くんだ??土」

土「翔太郎・・・フィリップは大体分かっていると思うから、フィリップに聞いてみればいいんじゃないか??」

翔太郎はフィリップに教えてくれという顔をする・・・フィリップは仕方ないなという顔をする

フィリップ「多分、電王の世界じゃないのかな??」

土「あたりだ!!!!」

フィリップにしては、珍しく「よっしゃ」と声を上げるかのように、フィリップは胸の前でガッツポーズをしていた

フィリップ「翔太郎・土・夏海ちゃん・五代雄介・小野寺ユウスケに告げる・地球の本棚に新しい情報が入ったようだ!」

もしや・・・またあの情報だったりして・・・

翔太郎「フィリップ読んでみてくれ!!!!早めにな!」

フィリップ「シヨッカー軍団の数が総勢1億対を超えたらしい、それにまだシヨッカーを生み出しているので戦っても、戦いが終わるめどが立たないかもしれない・・・」

・・・・・・・・・・・・・・・・

1億・・・・・・・・1億日本の人口より少し少ないが・・・油断不適だな・・・・・・・・どうすれば・・・

フィリップ「土どうする???」

日本人全滅いや、絶滅になってもおかしくない!!!人数だな・・・戦う仲間を増やすしか方法がないんだよな・・・

土「シンケンジャーやハリケンジャー・ゴーカイジャーにも助けを求めて一緒に戦ってもらおうか・・・」

5人?いや6人だと6人だからな・・・まあ人数的には足りるか・・・・・・・・

夏美「みなさんちよつといいですか???五代さんは友達になりましたけど、「一緒に戦う」とは一言も言っていないよ!!!どうするんですか????土くん!!!!」

夏美が言うのも本当の事だしな・・・五代に言わなくてはならないのか・・・

五代「あゝ土の家ってここでもいいのか??」

夏美「土くんの家ではありません！！ただ単にこの私の祖父の光
写真館に居座っているだけです！！！！本当は早く出て行つて欲しい
のですが出て行かないんです！！！！」

そうだったのか………

そういうところ間違ってますまないな……

士「中に入ればいいだろ……早く入れ！五代！」

翔太郎「無理やりは駄目だぞ土」

無理やりじゃないし、いいたそうにするつかさ

夏美の祖父「いらっしやい!!!」

! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ?
! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ?

あらたなる、仲間その名も五代さん

だれ！？

士『……………その反応ってありなのか！？』

五代『この人いったい何方ですかね！？』

と問いかける。10話目の最初の言葉が『だれ！？』だからね・
・

夏美『私の祖父です。五代さんわかりますか！？』

あつ！！夏美ちゃんのおじいさんね……ごめんなさい……

ユウスケ『五代さん……あの今……ショッカーが軍隊になつて、民間人〓何にも関係ない人をおそい、殺しているらしいでしょう！！』

何にも関係ない人が！？それは大変なことだ……だが、俺の力だけでは絶対に及ばないだろう

翔太郎『前話でもいったように、ショッカーの数が、1億を超え、すごいことになっている。』

フィリップ『ショッカーたちを倒す為に、協力して欲しい！！僕たちの命と1億人以上の人の命をかけたら、どっちが重いんだよ！！そんなこともわからないのか！？』

俺たちの命と1億人以上の人の命をかけたら、ぜったい1億人以上の人のほうが思いに決まっている。だから、助けたい。だが俺がいなくなったらクウガの世界の人はいったいどうなるんだ!?

士『別に協力しなくてもいいが、そしたら、仮面ライダーとしての恥となってもいいならばな、それだけ、胸に刻んでおけ!』

なんだかこいつ、破壊者だがム力つく性格のようだな・・・

五代『俺は居力する。罪の無い人を守る為に・・・』

意外にいいやつだと思っていたが、決断にこんなに時間がかかるとは・・・みつともないやつとしてにんめいしてやるよ!

翔太郎『士は、五代さんが仲間になってもらう為に、わざと、つめたくしていたんだよな!それは。俺にでもわかる。』

士『ま・・・まあそんなとこだ』

士・・・絶対にごまかしているそれだけは、検索しなくてもわかるぞ!! dyフィリップ

フィリップ『士・・・言わないから心配するな』

といい、つかさはそれにうなづく・・・

・・・・・・

翔太郎『五代さんは、先にディケイドの世界へ行ってくれ、あと

から俺たちは仲間を連れて行く、先に総司や渡がいるから・・・』

！？！？！？！？！？！

じゃあ、おれもいく、さらばという言葉在心中で残し、五代さんはディケイドの世界へ行った

士『後もう少しだな、がんばるしかないか・・・』

仮面ライダー電王の世界へ&おまけ！

士『そろそろ、電王の世界へ行き、仲間を作らなければならない．．．』

そう嘆く、士．．．．

翔太郎『もう行くのか．．．多忙な毎日なのに．．．また、根詰めるつもりか！？』

士『まあ、そうしないと誰かさんの世界が危ないからな．．．』

それを言われたら、仕方がないがな．．．

それに、電王の世界で注意すべきことを言わないとあとで、最悪のことが起きるかもしれないからな．．．．dyフィリップ

フィリップ『電王の世界で注意すべきことを言う、ちゃんと聞いてくれよ。』

みんなうなづき、フィリップの周りに集まってくる．．．

フィリップ『注意はただ1つ。イマジンに乗り移られないようにする事だ。と・く・に電王の良太郎が契約している。＜モモタロス＞・＜ウラタロス＞・＜キンタロス＞・＜リュウタロス＞・＜ジーク＞っていう奴には、気をつけて欲しい。』

今回は、フィリップが変にならなくて住んだが、次回どうなるかどうかは．．．俺たちにはわかるわけがないシナ．．．

シナだけなんでかたかなになるのか！？その意味が分からない
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

士『フィリップ！お前に聞くが、もし乗り移られたら、一体どうすれば俺の体から追い出すことが可能になるのか！？』

少々検索してから、答えを出すような感じのwのフィリップさん！

検索終了まで、あと10秒少々だと思います。

フィリップ『自分の意思で、追い出せばいいんだ！それさえ出来れば怖いものなんかない！』

そんなことが可能なら、最初ッからやっているのだと思うが・・・前に行った時は、そんな事出来なかったんだがな・・・

士『そんなことは、頭に入れといて、・・・デンライナーのチケットこれ渡しておく。じゃあ、電王の世界へ行くとうしよか・・・』

この言葉を合図に、3人は、電王の世界へ行った。

<電王の世界>

翔太郎『やっと、着いたみたいだな・・・』

本当にやつとだな・・・10分もかかったからな・・・いつもなら10秒ぐらいなのだが・・・

士『今何時だ！？デンライナーの駅に行きたいから時間を教えてくれ！！！！』

フィリップ『今、PM5：51分だ』

．．．．．微妙な所に来てしまったようだな

士『5：55：55秒にどこでもいいから、ドアを開けて、デンライナーの駅に行く、それだけだ！』

．．．．．みんなというか、2人は、首を振る。

翔太郎『そういえば、良太郎に幸太郎という孫いたよな．．．』

フィリップ『いる。new電王だ』

そんなことぐらい、事前に調べておけつつつの

5：55：55

<ガチャ>

と士が、どこかのドアを開ける。

3人は、その中へは行って行ってしまった。

【イマジン】

士たちは、デンライナーの駅に行った。しかも、大事な仲間のユウスケと夏美を置いて・・・

だが、そんなことなんか、頭の隅にもない士・・・

それに、デンライナーの駅にデンライナーがいなかったため、少々短期を起こしている士

いろんな士を見る頃ができて、面白いと思った。フィリップ

デンライナーの定番曲が流れ、デンライナーがゆっくりと士たちの前で止まった

そして、乗車口から1人の少女がおりてくる

士は乗車券を出すので、それにつられて、2人もデンライナーの乗車券を少女に渡す

ナオミ『私はナオミです。デンライナーの乗車ありがとうございます！』

というと、デンライナーの車内に案内してくれた

ナオミ『オーナー！お客さんでス！』

というと、みんなが一斉に振り向く・・・怪物たちも・・・

士『久しぶりだな良太郎・オーナー・とその怪物たち』

モモタロス<怪物つて何だよ!!!!!!>

ウラタロス<多分、それ先輩だけのことを言っているんだと僕は
思いますけどね>

そんなこと言ったら、モモタロスが良太郎に乗り移って、お前を
襲うと思うんだが……

やっぱ外見は引くな……こいつら……だが中身はいい奴な
のかもしれない

キンタロス<……怪物は俺たちの事だろ……>

リュウタロス<それは、キンちゃんともモモタロスの事だよね!き
つと!ウラタロスは、ただ単にきもいだけだもん!>

……

お前は何なんだ!?

フィリップ『そういえば、良太郎はドコへ行ったんだ!?』

そういえば、あの少年はどこへ行ったんだ!?モモタロスやそのほ
かのイマジンとかオーナーさんもいるというのに

オーナー『良太郎くんはそこで寝てます。』

こはな『昨日、4時間最強の敵と戦ってたから、疲れているんだ
よ』

4時間か・・・どんだけてこずっているんだか・・・そんなの簡単に倒せるんじゃないのか!?!?

士『お前今敵が現れたら、すぐに戦いにいけるのか!?』

良太郎は寝ながら手を上げOKのサインをつくって、士たちに見せている。

フィリップ『敵が現れたようだね・・・』

翔太郎『フィリップ行くぞ!』

というと、フィリップはうなづき、メモリを差し込む

<サイクロン・ジョーカー>

士『変身』

<仮面ライド デイクイド>

・・・・・・良太郎はまだ起きようとしない・

モモタロスが、良太郎に乗り移り、電王に変身する

電王の定番曲が流れ、変身する

M良太郎『変身!』

3人は、現実電王の世界に行き、戦いの準備をしていた・・・

【イマジン】（後書き）

ありがとうございました

絆

士・翔太郎・フィリップ・M良太郎は、敵と戦うために現実の電王の世界に来ていた

前回の話ですでに、変身していたので、今回は前回は振り返らず。そのまま進める事にする。

敵は全部で3体。しかもイマジンだ……

士『？』

イマジンは、奇妙な行動を取り仮面ライダーたちに向かい襲ってきたのであった。

なぜ、奇妙な行動を取ったのかは意味不明だが……ってか、誰も分かるもんか！と証言する作者

イマジンa『お前ら何者だ』

士は、いつもの口調で

士『通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ』

と普通にいい、まとめてしまう……もうちょっと仲間の仮面ライダーにもうちよっと言わせてもよかったような気がする

翔太郎『俺たちは、仮面ライダーW 私立探偵だ』

と、土に続いて、Wの翔太郎もこたえる。

フィリップは、全く興味が無いのでおとなしくしているようだ・
・そのほうが、返って翔太郎にとっては楽だがな

M良太郎『早く戦ってデンライナーに戻ろうぜ!』

と良太郎の入っているモモタロスがいう・・・なので、M良太郎の自己紹介?はモモタロスによってカットされてしまったのであった。

士『じゃあ、これで行くか』

<仮面ライド OOO>

タトバフォームにかえた士、オーズのカードは行く前に貰ったので、ここで始めて使用したのであった。

W『翔太郎!これで行くよ!』

<ルナ・トリガー>

メモリをチェンジし、黄色と青の姿になる仮面ライダーW

M電王『俺!参上!』

今頃かというふうに、みんなため息をつく、そんなことにも気づかずそのまま戦いを始めてしまうM良太郎。

まあ、モモタロスが入っているからねとみんな納得してしまう

士は、イマジン^aに、殴ったり飛びつきキックをかましたりしている、これが普通の人間に対してだったら暴行罪になるだろう。

Wの2人は、イマジン^bに、銃をむけつぎつぎとうち体力をじりじりと減らして行っているまさに作戦！絶対これは、フィリップが考えたものだろう。

M電王は、イマジン^cに、モモタロスの得意技をいろいろとだし、いろんな角度から攻撃していた。それに、良太郎の体は結構悲鳴を上げていたのかもしれない。

最後に、3人オリジナルの技を出そうと決め

士は、ディケイドに戻り、キックを Wは、トリガーフルバーストを M電王は、剣で相手を真つ二つに斬る技を出し3体を退治した？

3人の間には 絆 が生まれていたのであった

！ 仲間 ！

戦いが終わり、3人？はデンライナーに戻った。

そして、士・翔太郎・フィリップは、良太郎とその他のイマジンたちの説得を始めようとしていた。

翔太郎「おつかれ！良太郎！？大丈夫か？放心状態になっているけど」

たまに、放心状態になってしまう不幸少年野上 良太郎さん

士「まあ、俺たちがこの電王の世界に来た本題に入るが。いまシヨッカーが軍団を作り総勢1億を超えている。日本の人口に大体匹敵する数だ」

そう、説明する士・・・シヨッカーと言う敵は、昔仮面ライダー1号や2号などの昭和仮面ライダーたちに倒されたはずだったのでは？という、良太郎の疑問

良太郎「昭和仮面ライダーたちにシヨッカーは倒されたんじゃないかったのか？」

それに、賛同するイマジンもいれば、それはちがうと言うイマジンもいたあえて、名前を出さないが

士は、翔太郎に言う権利？をあたえ、次に翔太郎に喋らせる事にしたのであった。

翔太郎「どこかに、そのショッカーの生き残りがいたんだ。だから今になってこんなに増えたんだからな・・・証拠が無いがそれだけは言える。」

それもそうだ、と納得する士？フィリップは他に良い案が思いついたような思いついていないような感じだ？いや顔をしている

翔太郎「本当は全部倒されたはずだったんだが1人だけ生き残れば、この年数さえたてば1億を超えたっておかしいことはない！日本を守るためにもお前たちの力が必要なんだ！」

罪の無い人々を殺されてたまるかってんだ！苦しめたら俺がゆるさねえぞ！！！！

モモタロス「俺はやる。良太郎がもしやらなくても俺は日本のために戦う」

良太郎「僕が、やらないって、いついったのかな？モモタロス！！それに、ウラ・キン・リュウだって、協力しないと契約絶対きるからね」

ってか、これ、脅迫だったのか？はじめって知ったが、良太郎がここまで怖いとは・・・知らなかったんだ俺も翔太郎もな

キンタロス「まっ！良太郎のためにも一肌脱ぐとするか！」

リュウタロス「僕協力するけど！あてにしないでね！答えは聞いてな〜い！」

ウラタロス熟睡中のため。ひとまず後に行うこと決定中

士「wの世界に行っている仮面ライダーがたくさんいる。そこで待ち合わせだ！」

といって、灰色のオーロラを土はだし、良太郎たちはその中に入っていく

翔太郎「次は、仮面ライダーオーズの所へ行こうか！」

つかいてオーズと読むのは、頭がおかしいと思うが、D
CDも大体同じ様なものだから、許すか・・・

そんな事置いといて、ユウスケと夏海をまず迎えに行かなくちなああ11

グリードのメダル

士たちは、仮面ライダー　　ことオーズの世界にやってきたのであった。

士「ここは・・・？何で、目の前で仮面ライダーが戦っているんだ？しかもなにかと」

光写真館のドアを開けた士は、目の前で仮面ライダーがライオン？みたいなやつと戦っていたのであった。

士は、完璧に仮面ライダーとそのライオン？みたいやなつを無視しそのまま通り過ぎようとしていた。

??「おい待て！そのカメラ持った奴！僕はカザリ！面倒だから、こいつ倒してくれない？」

カザリというのか・・・変な名前だな。まあ、いいそんなのどうでもいいがな

士「俺は、必要最低限の事しかやらない」

といい、士は手を振って、カザリという奴と仮面ライダーとは反対方向に向かう。

??「ちょっと待ってくださいよ！！」

そう大きい声で、声をかけてくる変身した仮面ライダー？？？なのか？

一応、念のためにも士は振り返ってみる。

士「何だ？面倒だが・・・変身！」

<仮面ライド デイケイド>

！！！！！！？？？？この人、仮面ライダーだったのか？つか、初めて見る仮面ライダーだな、俺が見た仮面ライダーは？バース・フォーゼだった気がする」

フォーゼは、仮面ライダーオーズ將軍と21のコアメダルの採集の敵を倒す時。ピンチのオーズを倒してくれたんだよ」

？？「じゃなくて・・・」

オーズは、変身が解けてただのカラフルな服を着た、少年が倒れていたのであった。

士「はやくたて！！早くしたほうが身のためだぞ」

といい、少年に手を差し伸べる士・・・だが、その目は怒りに満ちていた。

<仮面ライド (オーズ)>

違う姿になった。それも、俺と同じ仮面ライダーオーズにまでも！！どうしようか・・・もしかして、またまた違う姿になっちゃったりして」

士「おい！カザリって奴！！仮面ライダーをいじめんなよ！」

といい、カザリをなぐり胸にトラのかぎ爪を胸に突っ込みメダルを取り、その少年に渡す。そのメダルは、ライオンのメダルだった

カザリは、逃げるようにして去って行ってしまった。

士は、変身を解きまたその少年に手を振り、反対方向へと歩いていく。

少年は、必死に士の服の袖をつかみ、こういったのであった。

??「俺は、火野映司です。これ俺が働いている所の名刺です。料理をあなたに食べさせたいので必ず来てください！」

そついい、映司は士の服の袖を離したのであった。

君次第

土「翔太郎！ここの料理屋に行くぞクス喜久治？どうも言えないな」

翔太郎「クスクシエ！ちゃんとよめよな・・・それぐらい、土でも言えるだろう」

土は、たまにかみかみになってしまふ。そこが、最大の難点だと思うがな・・・

フィリップ「僕も一応行っておく。結構おながが減ったからね・・・だって、翔太郎が作ってくれないのかもしれないか・・・」

フィリップお前って奴は・・・俺を、ハードボイルドでは無いといっているのと同じだぞ！！！！

相棒なのに、結構ひどいことを言っただからな・・・、結構身に染みて感じるぞ

翔太郎「じゃあ、いくとするか！！」

クスクシエ・・・

土「あの・・・映司って奴いや人はいるか？紹介されてきたんだが・・・」

????「ああ！映司くんのお友達？？映司くん呼ぶから、これお連れさんと一緒に食べてて！！！！」

と出されたのは、鳥のから揚げ定食3つであった。

それを、3人で1人前ずつ食べている。まあ、普通の事だがな・
・・・・

翔太郎「土？お前食べないのか？つてか、食欲が無いのか？」

土は、から揚げを1つ食べた後、全部残していた。

映司「すみません。ああ！あなた！こないだはありがとうござい
ました！」

翔太郎「土？こいつ助けたのか？」

「ああ」というように、土はうなずき、映司・翔太郎・フィリッ
プと言う順に、見ていく……。一応反応を見るためにね

映司「この方達は？どなたですか？」

土「俺の仲間だ。こいつも仮面ライダーだ。お前より1年先輩だ。
」

仮面ライダー？つてか、なんで仮面ライダーが2人も俺の世界に
いるのかな？それが分からないんですけど・・・・

翔太郎「左 翔太郎私立探偵だ。そしてこいつが俺の相棒のフィ
リップだ。仮面ライダーwだ。」

土「今はな、忙しいんだ早く仲間を集めないと・・・・そういえ

ば、海東の奴今はどこにいるんだ？」

そんなこと、僕の前で言われても・・・知らないわけですし、それぐらい分かってくださいよ

士「まあ、いいお前には俺たちの仲間になつてもらつ。いまはシヨッカーって言う敵が、とある世界に攻め込んでいる。総勢1億を超えている」

翔太郎「日本人が全滅していいのか？それにお前の名言の中にも「人の命よりもメダルを優先させるな」メダルの所は、気持ちに置き換えていえばいい」

どう決断するかは、映司次第なのは、誰でも分かっているはず。

フィリップ「どう決断する？それは、君次第だ！」

映司決意固める。(前書き)

おもしろいのか、わからないけど、読んでください

映司決意固める。

フィリップ「どう決断するかは君次第だ」

それは、分かっているはずだ。自分自身もな……。だけど……。ここを離れてしまって、グリードやヤミーが現れたらどうすればいいんだ？。

翔太郎「だな……。もしかして、敵の事が心配なら、電王に頼んで、時間を元に戻してもらえばいいんだからな。」

士「俺たちは仲間が欲しいんだ！お前がやらないなら、次の世界に行く。俺たちの関係もこれまでだ」

といい、写真館に戻っていく士。それにつれられ、翔太郎とフィリップも写真館に戻っていく。

その姿を、映司はずっと見ていた。オーズに簡単な事だが、アンクがいらないとどうにもならないし……。それに、もうオーズは古くなっちゃうし……。

映司は、とつさにアンクのもとへ向かったのであった。

クスクシエ……。

映司「アンク！！！！アンク！！！！どこだ？」

アンク「映司！うるさい！！なんなんだよ！昼まつから！！メダルはやらね〜ぞ！」

そんなことじゃないって言うんだがな……

メダルはいらない。ってか、もう面倒だから、アंकだけ連れて行ってやるし!!!。

映司「ちよつとだけ、アंकと出かけてきます。」

といい、アंकを引っ張り、光写真館まで連れて行くのであった。

光写真館……………

映司「土さん!!俺は、世界を守るために、戦いに行きます!後こいつも交えて!一緒に行きます!!」

土「分かった。じゃあ、このオーロラをくぐり、俺たちが集めたライダーたちがいる。世界に行ってくれ!!分かったか?」

映司はうなづき、アंकと一緒に灰色のオーロラをくぐり行こうとするが、アंकが止まる。

アंक「あっちの世界には、アイスあるのか??ないとはいわせねえぞ」

そんなことかよ……あるに決まってるだろ!ただ単に買えばいいだけの事。それだけの事だよ。

土「あるよな翔太郎」

翔太郎「ああ、事務所の冷蔵庫にも入っているからな……」

それだけを言い残し2人は灰色のオーロラをくぐり、ライダー大戦の世界に行ったのであった。

次の世界は、仮面ライダーカブト

士「やつと、次の世界にいけるな・・・！！！！」

ちよつとは喜ばしい事だからな・・・後行っていない世界は、仮面ライダーカブト・仮面ライダー響鬼・仮面ライダー龍騎・仮面ライダー555・仮面ライダーブレイド・仮面ライダーアギト・仮面ライダーフォーゼの世界・・・フォーゼの世界と言っても、こないだ、始まったばかりなんだけどな

翔太郎「まあ、次はどの世界に行くつもりなんだ？士？」

士はよく考えているようだ・・・だけど、やはり迷っているような気がするの、それはどうしてなんだ？

士「次は、仮面ライダーカブトの世界に決めた。なんか、おでんが食べたくなったからな」

それは、お前が行った世界の天堂ソウジのおばあちゃんがやっていた、おでんやさんで、俺たちが今から行く世界は、水島ヒロ演じる、天道総司の所へ行くんだからな・・・おでんは、食べれない！それだけは断言してやる

フィリップ「では、いくとするか・・・はやくいって、士の願いを叶えなければならなし、そうしないと、士が怒ってしまうからな・・・」

怒ってしまったわないと思うんだがな？。そう思うのは、この左翔太郎だけか？

フィリップも思っていたら、いいとおもうが、でもさっき言ったのはフィリップだからな・・・

士「というわけで、行くとする。そういえば、なつみかとユウスケはどこへ行ったんだ？」

今頃かよ～～もう、もとの世界に戻ったんだろ！お前が、電王の世界でおいて行ってしまったからな・・・お前のせいなんだよ！！！！

このごろ、俺、ツツコミばかりしているような気がする。乾巧みたいにだけはなりたくないよ～～

そして、仮面ライダーカブトの世界・・・

士「ってか、今度は医者か？」

士は、医者 of 格好をしていた。そして、翔太郎やフィリップの格好はと言つと？

翔太郎「俺は、サッカー選手か？フィリップは、専門家か？」

翔太郎の言つたとおり、翔太郎はサッカー選手みたいな格好。フィリップは眼鏡をかけて、専門家みたいな格好になる。

士「あれは誰だ？？あいつどこかで見たような・・・天道総司って奴か？？？」

翔太郎「おお水島ヒロ！じゃなくて、天道総司さんだな！！！！ああ仮面ライダーカブトだよ！士！」

仮面ライダー？あいつが？マイペースな奴っ婆いが、あいつが
仮面ライダーなのか？分からないがな・・・

翔太郎「声かけてみるか？士？」

士「いや、面倒な事はいい・・・」

天道総司と門矢士ご対面

仮面ライダーカブトの世界に来た、士・翔太郎・フィリップ

総司を見かけたが、士は無視し、そのまま写真館に帰ってしまっただのであった。

光写真館……

翔太郎「おい！士！いつ誘いに行くんだ？？あの総司って人の……」

フィリップ「翔太郎！急かすなよ！そのぐらい、士だって分かっているはずだからな……」

翔太郎が言った事に、フィリップが士をフォローしたのであった。まあ、フィリップが士をかばう事は、ほんのたまにしかないことだけれどもな……

士「明日行くから、それぐらい分かるだろ！！！」

まあ、それぐらいは、長い付き合いだから分かるからな……
……！！。

フィリップ「じゃあ、もう行くか！それしかない。お前たちの道はこれしかないんだ！！分かったな！」

なんか、フィリップが変になった気がうする？それは、気のせいのような、気のせいのようなじゃないような……？もうわからねー

〃

士「フィリップがうるさいから、今日行く！。翔太郎ついてこい！フィリップは、ここにいろよ！もしも、ミュージアムに狙われたら助けられないからな・・・」

といい、フィリップを残し翔太郎と士は、総司を探しに行ったのであった。

街・・・・・・・・

やっぱり、街ってにぎやかだな。と感じる。やはり、街は活気に溢れていて、もしかしてここがショッカーの軍隊に襲われたらと思うとゾツとする。

翔太郎「そこら辺の路地裏のほうにいそうじゃないか？なんか、予想だがな・・・」

そういい、翔太郎は路地裏の道に行ってしまった。士は、翔太郎とは連絡が取れるから別に別行動しても大丈夫だと思ひ。近くにあった丘を登る。

そこには、1人、人がいた。髪の毛は黒、ちよつとパーマがかかり、くちやくちやになっている髪の毛。背は高く、その人の周りには、普通の人とは違ふオーラ？みたいなのが、士にはみえたのであった。

??誰だ？あのもじや毛あたまのやつは・・・・？あれが、仮面ライダーカブトとか言わないよな・・・

???「お前、誰だ！俺は、天の道をゆき、総てを司る男。天道総司だ！」

やっぱこいつが、仮面ライダーカブトか・・・？いや、そんなわけは無い！こいつは、ただの変な奴それだけだ

総司「お前、誰だ？」

士「門矢 士 通りすがりのものだ。ただ、それだけのことだ。」

それだけいい、士は、立ち去ったのであった。その姿を、総司は士の姿が見えなくなるまで見ていたのであった。

総司「あいつ！もしかや天堂が言っていた。あの門矢士なのか？？？だとしたら、仮面ライダーだ。しかし、なぜ本当の事を言わなかった？」

そういう、疑問が総司の頭の中にいっぱい込みあがっていったのであった。

光写真館・・・・・・・・

翔太郎「総司いなかったのか？もしかして、あつたんじゃないのか？その顔は・・・」

フィリップ「僕も予想するよ！。君は、天道総司とあい、少し話が話をした。そして、自分から立ち去った！そうだろう！」

なんで、フィリップは全部当てるんだ？意味分らないぞ！！おいおいおい！！地球の本棚とかいうのもっているとは知って

いたが、それがどこにあるのかも分からない！フィリップは、分からない事だらけだ。

土「フィリップや翔太郎の言ったとおり、天道総司にあった。しかし、自己紹介ぐらいで俺は、帰ってきたが？。それだけだ」

元の土に戻ったような気がするんだが？？？元の土って一体何なんだ？？それがわからない！自分で考えといて・・・俺って馬鹿だから、みんなに「ハードボイルド」じゃなくて「ハーフボイルド」って呼ばれるんだよ・・・

翔太郎「じゃあ、俺、明日市役所行って、総司の家の場所調べてくるから、それまでは、ここの写真館から一切動くんじゃないぞ！」

フィリップ「僕は、知りたいものを検索していればいい。」

土「俺は、テキトーに暇をつぶす。」

土はそれだけいい。ベットに横たわったのであった。翔太郎はコンビニで弁当を買い。フィリップに渡し、土の分は冷蔵庫にINしたのであった。

天道総司と門矢士ご対面（後書き）

感想送ってください。お待ちしております。

天道総司の過去とは??

次の日の朝、

士は、昨日ベットで爆すいしていたことに気づく。翔太郎たちをさがすが、どの部屋を見てもいないのだ。

それもそうだ、翔太郎はジョギングと図書館、フィリップは町の散策と図書館に行ったからしかたもないこと、それに今は午前10時士が寝すぎたのであった。

士「今日も仕事をしなければならないのか??? つか、俺の仕事って何なんだよ!」

と自分に問いかけ、自分で答えようとするが、分からないのであった。自問自答にはならなかったのであった。

「ガチャ」つと音を立て、ドアが開く。そこには、見慣れた人物がいた。一瞬ほつとした士・・・

翔太郎「士! 手伝え! フィリップの奴が20冊も本を借りて、もって帰るのが大変なんだ! ほらっ手伝えって!」

士は、翔太郎に連れられ、図書館に連れて行かれたのであった。

図書館・・・

翔太郎「この6冊の本よろしく。あとフィリップがまだかえらなそうだから、運んでおかないと後で面倒なことになるからな」

士「今でも、面倒なんだけどな……だが、後で面倒になるのは、もつとだめだ」

のつたな……やったな！ということで、6冊はこぶつもりだった、士に、翔太郎がもう2冊上に乗っける。

士「おい！翔太郎！！俺はもう無理だ！この分厚い本は。。。だな」

じゃあ、分厚い本じゃなければいいのね！？と感じてしまったフィリップ……まあ、そんなことはおいといてな〜

フィリップは、また本を借りようとしているので、翔太郎はそれを止め、引きずってもフィリップを事務所に持って帰ろうとする。

フィリップ「翔太郎！僕の事は放っておいてくれ！今は事務所に帰らないからね！」

そう断言し、フィリップは図書館の奥に消えて行ってしまったのであった。

翔太郎「フィリップの事は、大丈夫だから、早く写真館に帰ろう！」

ってか、なんでさっきフィリップは写真館ではなく、風都にある。鳴海探偵事務所の事を言っただ？？鳴海は余計だったか？

まあ、そんなこと、どうでもいいがな……！！？！！？

光写真館……

士「おい、この本どうすればいいんだ？？答えは聞かない、この本はこのフィリップ専用の机においておく」

翔太郎「おつかれさん！あと、フィリップには伝えておくから、もうお前の仕事は終わりだ……そんなことより、総司の所へ行つてこい！」

ああ、天道総司のことを忘れてしまった、ずまんいやすまん！！
！このごろ、よく噛んでいるような気がする。そんなことは、どうでもいいがな。

そんな時にかぎつて、敵が現れる。渋谷隕石に乗っていた、ワームが町に現れたのだ。

翔太郎「士……お前は、総司のところへいけ！おれは、ワームをおい、倒してやってくる。フィリップは図書館居るから大丈夫だろ」

といい、翔太郎は、写真館のドアを乱暴に閉め、ワームを倒しに、1人でいや、2人で行ったのであった。

士「俺は、何で面倒な事を……まあいい、行くか」

といい、士は、総司がいそうなところに行くのであった。

敵との戦い……

翔太郎「あいつか……変身！！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

フィリップ「またか・・・変身」

・・・・・・・・・・・・・・・・

<サイクロン・ジョーカー>

ワームは、変な格好をしていて、今の翔太郎にはせつめいできないようにであった。

ちょっと、やばいかもしれないという格好ということだけは、ご理解いただきたい。

翔太郎「やはり、俺には無理な気がする~~~~!!!!」

フィリップ「翔太郎！ちょっとは、我慢したらどうなんだい？」

フィリップの言う事には、もう飽きたんだな・・・それは、十分誰でも分かっているはずだ。

翔太郎「もう！フィリップこれで行くぞ!!」

<ルナ・トリガー>

フィリップ「翔太郎！面倒だ!!これで決めるよ!!!!」

<トリガーフルバースト>

そして、いとも簡単に、ワームは倒されたのであった。

そして、士はというと????

総司を探しに行ったのだが、全くいないし、翔太郎が早速調べた、情報屋に行っても、総司の情報が全くないのだ。

家の情報もないし、翔太郎に一応聞いて見ないとな……

光写真館……

翔太郎「総司の情報？あいつは、いつも士がこないで行った丘にいる。その情報しか探偵の俺の耳に入らないからな……」

士「そうなのか……分かった。ありがとな」

つかさが！！お礼？を言った、なんて、士にとっては凄い事なんだろうか……それは、1年に1回言うかわらないかということだな……

フィリップ「そうだ！地球の本棚にこんな情報が入ったけど？聴いてみるかい？」

2人は、フィリップの下に近づいてくる。そして、フィリップが地球の本棚にはいりある本を取ってきた。

フィリップ「この情報は、もらさないほうがいい。総司はこのあいだ、妹をなくした。毎日墓参りに行っているらしい。」

……！俺が行ったときは、生きてい

たぞー！！！！

ってか、それは天堂さんのときだから、しょうがないと思うんだけど……

翔太郎「土それは、違うと思うぞ……！多分な……」

フィリップ「妹は、ワームとの戦いに巻き込まれ亡くなったと書かれている。」

そうなのか、じゃあ、手分けして天道を探し出すそれだけだ。

総司仲間になる。

翔太郎「今日は、この周辺地域を総司がいないかさがしてみるぞ
！！！」

士「面倒なことは俺はごめんだな」

フィリップ「そうしないと、ショッカーがな・・・日本に攻め入
ってしまうぞ」どっかの世界が滅びてしまう」

フィリップの脅しに士は脅迫され中・・・それはおいといとかな
いとね！！！！dy翔太郎

本当に面倒な事はごめんな士だが、これだけはどうしようもない
ことだからな。

翔太郎「早くしなければ、このガイヤメモリおまえに打ち込むぞ
！！コラ！！」

ちよつとやばい事言っている人が1名いるんですが！どうしまし
ようか？dy天の声

つてか、天の声って一応作者って事だよね！答えは聞いてな
いdyリュウタロス

なんで、リュウタロスや作者などがあるのかも知らないけどな・・・
・・・とおもう。翔太郎なのであった。

土「ちよつと待ておい！お前結構やばい事言っているんだがな、それ気づけそれだけだ・・・。」

土結構冷静だなと思っっている翔太郎・・・そして、フィリップは何にも考えていない様子なのかそれはわからない。

翔太郎「これ、フィリップが携帯作ったから、これもつていけ！
何かあったら電話しろ！その中に、俺の電話しろ！！」

その携帯は、手作り感は全くなく、ちょくちょく完璧！って感じの水色の2つ折り型携帯なのだ。そして、防水型なのだ！！やはりフィリップの作るものは、完璧なんだな。

やっぱりフィリップは天才だと思うのは、俺たちだけか???

土は、総司を探すため光写真館を出て行ったのであった。

総司のいる丘……？？？なのかな？

土「いたな。。。おい！お前この写真の敵知っていたか??？」

総司「その前に、お前誰だ……？　つか、それはワームだ」

ってか、答えになつていない気がする？ ようなな．．．まあいいとして、答えたほうがいいと思うのか．．．

土「通りすがりの仮面ライダーだ。覚えておけ！」

総司「仮面ライダー？俺のほかにも仮面ライダーがいたのか？」

そんなことも知らなかったのかよ！！と翔太郎がいたなら、そうツッコミをするだろうと思うのだが・・・

総司「おばあちゃんが言っていた、俺のほかの仮面ライダーとつるむなと」

おいおい、おばあちゃんを頼りにするなと！！言いたい所なんだがな・・・それも、仮面ライダーとつるんでいる気がうつるんだけど・・・それはどうしてだ??

士「妹のためだとしたら?その友達のためだとしたら?」

総司の顔色が一瞬で変わる。「それはどういう意味だ?」と総司の顔色で、士は判断してしまうのであった。

総司「妹は死んだ。ワームのせいだな。俺は、悪者を憎んでいるただそれだけの事だ」

なんか、最後は、士の口調に似ているような気がしたんだが??それは気のせいなのか??

士「じゃあ、電王に頼んで、妹に合わせてやってもいい。条件付だがな」

総司は、「条件付」という言葉にやはり、反応する。ほんの「ピクッ」っていうぐらいだがな。そのぐらいの反応も、士の目には、「お見通し!!」って感じなんだがな・・・

総司「おい!仮面ライダー・・・条件を言ってみろ!!!」

士は総司の言葉に少々喜ぶのであった。

士「俺と一緒にシヨッカーを倒す。それだけだ！これをクリアすれば、妹の顔だけは見せさせてやる」

総司は、妹に激愛？？しているので、絶対にこの条件をのむと思うのだが？？そう思うのは、この俺だけというわけか??

総司「のんでやる。お前の仲間を見た。紹介しろ俺は、このごろ人見知りになった」

人見知りなのは、妹がなくなってからだ。前までは違ったのにな。
・・・

光写真館・・・・・・・・

翔太郎「俺は、左翔太郎。こいつはフィリップ。俺らは仮面ライダーwだ。」

フィリップは、読書ばかりしていて、総司のことを全く見ようとしない。

フィリップはやっと総司のことを見たが、すぐに読書に見入ってしまった。

総司「よろしくな・・・・！」

士「あと、大戦の世界へ行って行ってくれ！みんなが行っている。」

翔太郎「総司俺は、お前の事をあまり信用していない。大戦のときに、力を發揮してくれる事を願う」

総司は、何も言わず、うなづく。そして、土と翔太郎は、いろいろな事を総司にいう。そして、釘を刺す。

そして、土は灰色のオーロラを出し、総司をその中に案内する。そして、1回大戦の世界に土は行き、みんなの様子を見てきたのであった。

翔太郎に言わせれば、最後は全く総司は、何も言わず、大戦の世界へ行ってしまった。それだけの事だ。

土「また一人増えたな・・・」

翔太郎「そうだな・・・あと、アギトと龍騎？とららぐらいか??」

それもそうだ！という顔をする土・・・フィリップはどこかへ行ってしまったらしい。

土「じゃあ、次は、龍騎の世界だな・・・」

新仮面ライダーその名は仮面ライダーライド

龍騎の世界・・・・・・・・・・

士「着いたか・・・ここは、色々な仮面ライダーがいる世界と聞いたが、フィリップ！説明してくれ！」

フィリップは頷き、翔太郎と士の前に立ち、教師みたいに話し始めるのであった。

フィリップ「ここは、ミラーワールドと言って鏡の世界を行き来できる。その技を使えさえすれば、俺たちは無敵だ。」

微妙な説明でしたな、フィリップくん

でも、ミラーワールドのことについては、士や翔太郎は分かっていたので、一応分かっていたので、大丈夫であった。

これがもし分からなければ、フィリップの説明では全く分からなかったと思う。

翔太郎「それで、主人公の龍騎に変身する。城戸真司くんはどんなのかな？？？」

士「わからないのか？？そのくらい調べておけよ」

おいおい士！ちょっとまでこら！！！！お前だって調べてないんだろ！！！！どうせな

翔太郎「分からないから、質問してんだろうが！！それぐらい分かれつうの！」

フィリップ「翔太郎の言っているとおりで僕は思っただけだね。士！！わかるかい？？？」

翔太郎とフィリップが仮面ライダー以外にタッグを組み、士を倒そうとしているのは、初めてみるような気がするのだが……

フィリップ「士！知識力なら僕が勝つと思うよ！！！」

それは、ごもつともな意見だとおもうんだけどな……。翔太郎も誰もフィリップに知識力は勝てないと思っている。

翔太郎「フィリップ！そんなこと、誰でも分かっている。もう編集者でも行ってお前の知識を見せてきたらどうだ？」

この言葉を聴き、早速編集者に行った。翔太郎はただの、冗談のつもりでいったつもりだったのだが……。フィリップは本気にさせてしまったらしい。

翔太郎は少々反省中って所かな？？？フィリップは夜9時ごろにやつと帰ってきた。その顔は凄い笑顔だったのであった。。。。

そして次の日……

翔太郎「！士！これ見てみるよ！！！！フィリップが載っているぞ！！！！」

「なんなんだ？」見たいな感じで、新聞を見ると！見出しに

は「天才！青年大大発見！」と書いてあった。

士「やつちまったのか・・・フィリップ・・・翔太郎どうするんだ？」

内容は、名前はフィリップ。世界中のあらゆることを知っている少年。これからこうご期待！分からないこと募集中！

なんて事を書かれていたのであった・・・。

翔太郎「フィリップが人気集めたらどうなるんだ？分からない。フィリップの顔だと人気集めるぞ！！対処するしかねえだろ！」

そんなことに期待してどうするんだよ。人気集めたらどうなるって、ファンが増えるに決まっているそれだけのことだ。

フィリップ帰宅・・・。

フィリップ「そうだ！これ新仮面ライダーのベルト作った。人はもう選んである！。名前は、後で発表する。」

翔太郎「何で、こういうときに、ベルトを作るんだよ！ライダーは必要だけど！訓練とか必要じゃねえかよ！」

士「翔太郎と同感だ・・・。」

翔太郎の意見に、士も同感するのであった。仮面ライダーのベルトをつくるとか、やっぱり天才なんだな・・・。

翔太郎「それで、その仮面ライダーの名前って言うのは何なんだ？」

フィリップ「仮面ライダーライドだ。ドライビングするみたいな感じなのかな・・・」

そんな感じって、どんな感じ何なんだよ！！それは、フィリップ！お前しか分からないはずなんだがな・・・

翔太郎「ライドの変身人物ってだれなんだよ！！教えてフィリップ！」

フィリップ「まあ、いいけど。水乃^{みずの}影楼^{かげろう}だ通称かげだ。！」

影楼は、忍者村出身。年齢は17歳。頭がよく、理論的に考え行動する。

身長は185cm。体重は66kg。金髪で目はエメラルドグリーン。全身ほっそりしている

翔太郎「なら、その影楼というやつに会わせてくれよな！。約束だぞ！フィリップ！よろしくな！」

フィリップ「分かった。電話で取り付けておこう。」

本当に電話で取り付けておくのだろうか・・・フィリップを信用していいのか？なぜ相棒を俺が疑うのか？

士「これが写真って言うわけだ。」

翔太郎「なんで、士が持っているんだ？その影楼とか言う奴の写真をな。」

士が持っていたのは、長身の若い青年が写っている写真だったのであつた。

士「この間、お前の情報やから貰つたんだがな・・・？駄目だったか??」

なんで、俺の情報やからもらつたんだ??ちよつと意味が分からないのだから・・・?

翔太郎「それは、もうどうでもいいことだ。」

士「じゃあ、この写真はどうか??この影楼の制服姿は?」

おいおい、お前は、その新仮面ライダーの影楼の写真を一体何枚持っているのか??どれだけ、俺の情報やから写真を貰っているだろうかという話なんだがな・・・

翔太郎「もう、どうでもいいから！次の話は、絶対にそのかげろうを、変身させ俺たちに会わせるよ!」

フィリップ「わかつたから!。静かにしてくれないかな?僕はイマ本を読んでいる所なんだ!邪魔しないでくれる?」

すぐに話が変わった気がする。まあそんなことどうでもいいか!!

かがろう無しって本当か？と城戸真司

ってかさゝ龍騎の世界に来たって事を忘れていたような気がするんですけど・・・あの新仮面ライダーの話で持ちきりだったからね・

そして、その仮面ライダー主人公が今回始めて登場！なのだ！！
！だから！？文句あるかい？？？

・
見たいな感じなんだけどね・・・それは、どっかに置いて・

翔太郎「フィリップ！いつになったら、影楼にあわせてくれるんだよ！」

フィリップ「今日、事務所に来てくれるように頼んだんだよ！そして、一緒に戦ってもらえるようにね！」

フィリップ！お前は嫌な所もあるけれど、親友として、いや相棒としてよかったとも思う時が、いっぱいあるぞ〜

士「かがろうは、何時に来るんだ？ってか、ここ光写真館なのだが・・・事務所ではない！」

まあ、フィリップにも間違える事があるって事なんだよな！それをイマ証明してくれたって事だけ？？？

翔太郎「今のは、フィリップがたまたま間違えたただだ！！許してやってくれ！」

士を説得する翔太郎なのであった。

このあいだの、フィリップの翔太郎をカバーしたように、今回は、翔太郎がフィリップをカバーしたのであった

士「分かっている。だが、一体何時に来るんだ？」

フィリップ「午後6時だ。覚えておけ！」

おいおい、今は、フィリップが俺の名台詞を取ったんだよな！
じゃあ、俺も勝手に取ってやる！

今は、朝なので、編集社に向かおうと言ったのであった。かげろ
うが来る前に……

編集社……

翔太郎「あの〜城戸真司ってひといますか？ここの編集社にな？」

受付いやインフォメーションセンターの人に問いかけている翔太
郎……

センターの人「ただいま、こちらにむかっておりますので、少々
お待ちください！えっと、お名前は？」

ここは1階だから、今エレベーターで向かっているという事なの
か？車でこちらに向かっているという事なのか？それが分からない。
……

翔太郎「左翔太郎。こいつはフィリップ。こいつは門矢士だ。」

センターの人「真司さんとは、お知り合いですか？」

お知り合いなわけないだろ！！あつたこともないというのにな・

・

翔太郎「高校のころの同級生なんですけど。名前は出さないでも
られますか？ドッキリにしたいものですから！」

なんとか、カモフラージュしたけど。ばれてはないよな・・・ば
れたら、士のせいにして逃げてやる！！

フィリップ「僕は、あいつと一緒に働いていた事があつてね！前
に「たまには編集社によつてくれ！」といわれていたもんでね！」

やはり、ちよつと無理があつたかもしれないな。dyフィリップ
もうちよつとで会えるのか？dy士

センターの人「では、5番テーブルにおかけになつて、あとでコ
ーヒーなどをもって行きます。あと少々お待ちください！」

5番テーブルに座る3人組・・・・・・

翔太郎「説得は、士がやってくれよ！俺は、そういうのは苦手な
んだからな！」

士「やればいいんだろ。あとは、テキトーにすればいいんだか
らな！」

テキストっておいおい！それに、「やればいいんだろう！」とか、
言っちゃいけない言葉だとは思うのだが……

フィリップ「来たと思うよ！」

.....

エレベーターが開き、一人の少年？いや、青年が水色のジャケットを着ていたのであった。

???「君達は誰だ？知り合いではないな。」

士「門矢士だ。こいつらは左翔太郎とフィリップだ。お前と同じ
仮面ライダーだ。」

仮面ライダー？でも。あんなに龍騎の世界にいるのに、これ以上に増えたらどうするんだよ……

???「これ以上この世界には、仮面ライダーはいらない。」

翔太郎「城戸真司！お前の世界に住むなんてはいつてない、俺たちは違う世界から来たただけだ」

なぜ、違う世界から来たんだ？それに、3人もな……

真司の言うとおり、これ以上龍騎の世界には、仮面ライダーはいらないはずなんだけど……

真司「じゃあ、なぜ俺の世界に来たんだ??」

翔太郎「士！説明どうぞよろしくな！」

翔太郎は、真司の言葉を聞くと、すぐに士に説明を依頼するのであった。

士「分かったよ!!俺たちは、仮面ライダーの仲間達をあつめている。なぜかというと、ショッカー〓敵が日本の人口を超え、やがては攻めてくるという情報がいってきたからな・・・!」

すごい、長い説明だったけどおつかれさん!ってとこだな!

それに、この説明を何回聞いたことが・・・それは、言わないでおこうというものだけだな。

真司「さっきは、変な事を言つてすまない。仮面ライダーと聞いただけでな・・・」

翔太郎「まあいい、人を外見で判断するのと同様だ。」

翔太郎の言っている事はちょっと違うような気がするけどね・・・?まあ、いいだろうとおもう士なのであった。

士「ていうか、かげろうの奴この話で出てくるはずじゃなかったのか?」

それをいうの?いまから?もう終わりということなのに・・・

翔太郎「フィリップからの伝言。次話だつて！」

つか、フィリップは隣にいるじゃんかよ！なんで、それなのに翔太郎を通じて言わなきゃいけないんだよ！

士「どうでもいいさ！！！」

フィリップ「じゃあ、僕はこれで失礼するよ！調べ物をしなければならいんでね！」

と、フィリップは編集社から去ってしまったのであった。まあ、どうでもいいことだけど？

士「今回は、これまでにしよう。そのほうが、会つまでの楽しみも増えるつてもんだ。」

ただそれだけのことさ。では、今回はおしまいだ！じゃあな

名前決定？

かがろう参上！の巻き?????なのかな？

フィリップ「紹介する。こいつが「かげろうだ」！」

本当に身長が高く無駄な体脂肪が無いみたいな感じた・・・それに、髪の毛はスーパー戦隊35作品目の「海賊戦隊ゴーカイジャー」のジョーギブゲンぐらいの髪の毛の長さなのだ。知らない人は、腰ぐらゐまで髪の毛の長さがあるってことだ。

翔太郎「ってか、大きくないか！？こいつ！なんか上から目線なような気がするんだが・・・」

士「翔太郎！それを言うてはおしまいだ！！！！」

そうだな！と感心する翔太郎。

士は・・・本当の事を言っちゃった。まあそんなのどうでもいいことだがな

俺（士）、これからはこいつと旅をともしたい気分だ。

フィリップは、検索ばかだし、夢中になると周りの事が見えなくなってしまうし、

翔太郎、ハードボイルドとか自分で言っているが、完璧にハーフボイルドだ。それに、いっつも帽子をかぶっていて辛気臭いんだ。

そんなこと俺にとっては、そうでもいいことだが、かげろうおまえの能力を見せてもらいたいものだな！

そんなことしらだめなのか？そんなこと誰も言ってはいない！！

影楼「ベルト完成しているのか？それに装備などもな・・・」

「

フィリップは本を読みながら、静かに頷く。それに、土の頭にはある疑問が浮かび上がったのだ。

翔太郎「なぜ、こいつを新しい仮面ライダーにしたんだ？？それが分からない。運動神経はいいかもしれないが、どうしてなんだ？」

フィリップは「その質問！待ってました！」というように、立ち上がり！、説明の準備をし始めたのであった。

そして、フィリップはそこらへんにあった、ホワイトボードを持ってきて！、書いて説明するのであった。

フィリップ「影楼は、僕の親友の子供ということも一理ある。そして、運動神経もいいこともまた一理。最後に人柄、人を助けたいという気持ちが沢山あるということが理由だ」

やっぱり、運動神経の事も入っていたな・・・それに、お前の親友って誰なのや！それに子供ってただ単に簡単だからなんだろ！ってかんじ

翔太郎「フィリップ！俺の相棒が気に入った奴なら、仕方が無いがな。無茶なまねだけは絶対にするんじゃないぞ！わかったな！」

翔太郎は、弟子のように影楼にいう。それをきいて、影楼はゆつくりとうなずく。

士は、その様子を見ていて、ひとつ気になった。

士「お前、動作は遅いのだが、本当に忍者なのか？」

フィリップ「その質問には、僕が答えるでしょう！こいつは、変身していなくても50メートルを5秒で駆け抜ける。」

50メートルを5秒秒で走るなんて、尋常じゃないや、人間ではないただ、それだけのことだ。

ってことは、変身したら一体どんな速さになるんだよ、全く想像がつかない。

影楼「この場でお見せしよう。」

と影楼が始めて喋った言葉だったのであった。

50メートルをフィリップが測り、翔太郎がストップウォッチをもって50m先にいる、そして、この俺が「ヨーイドン」などという手はずだ。

俺は、面倒な事は避けたい。だから、ヨーイドンは、まさに適当に言うのであった。

「ヨーイドン」

そして、あっという間に翔太郎前を通り過ぎるのであった。

翔太郎「はやつ！記録、4秒28だ・・・やはり人間じゃない！あの人類最速の男ウサイン・ボルトよりもはえ～～～し」

ボルトは、オリンピックや世界陸上で100メートルや200メートルで、人類最速と呼ばれている男のなのだったのだが・・・

今では、そうではないらしい・・・のだ・・・

士「そういえば、龍騎の世界だってこと忘れていないか？俺たち」

「そういえば」というような顔をする2人、この3人は影楼のことで頭がいっぱいになり「龍騎の世界」に来ている事も忘れてしまっていたようだ

翔太郎「影楼！お前には、今日から別名で呼ぶ。本名で検索されたら、いやだからな・・・」

フィリップ「じゃあ、城戸榎月なんてのはどうだ？」

なんか、女っぽい名前だな。それに、フィリップの名前のセンスがちよつとな・・・女子っぽいというかなんというか。。。。

それに、龍騎の世界だって事もアリ、「城戸」って言う苗字にしたらしいな・・・

だが、やはりセンスはだめかな？

士「名前だけでいいだろう。影楼！お前が好きな名前を選べばい

い」

影楼は考える。そして、

影楼「霜月神つゆつきがみのほうが、フィリップさんが考えてくれたよりはいい」

おいおい！それは、フィリップのセンスが駄目って事だな！でも、本当の事だからいいがな

翔太郎「自分で決めたんだからそれで自己満足しろよ！俺たちは神とよぶ、俺たちは本名だから」

なぜ、影楼から神にしたかというと、忍者という事もばれてはいけないし、一応デスノートにかかれる場合を想定して・・・俺たちは、どうせ、書かれてもいいと思っているのだ。

ってか、デスノートってこの世に存在しないのでは？ってかんじだけどね

神「フィリップさんと翔吉さんと土さんだね」

翔太郎「おいおい！俺は、翔吉じゃなくて翔太郎だっつうの！何で、俺だけ忘れられているんだ？」

しょうがないじゃんこれから覚えればいい事なんだからな！

龍騎の世界とは全く関係ないような？

龍騎の世界にはいっぱい仮面ライダーがいることはご存知だろう。しかし、全員優しい心を持ったものとは限らない。それに連れて行けない。

龍騎とナイトは完全に決定されているが、そのほかどんな奴がいるのかも知らないのだ。士以外はな

分かっているわけが無い。わかっていたらそれはとてもいい事なのだが、神にも協力してもらわなくてはならないな。

光写真館・・・

神「今日からここが、俺の住む家ですか？」

士「まあ、そんなとこだな。」

ともと影楼「神の質問に、そっけなく答え、冷静に回答を済ませている。

そんな、士を見て、翔太郎はやっぱり「そっけない」とおもい、ため息をつくのであった。

翔太郎はいつも士が座っている席にすわり、士はずっと立っている。神は写真館の中を見て周り、フィリップいつもと変わらず、本を読みふけていた。しかし、興味があるものときだけは、ホワイトボード一面にその情報を書き写す。

ただ、それだけのことだ。

翔太郎「そういえば、神の事より、城戸真司君の事はどうするんだよ！――！総司のときみたいにいつぱい月日がかかってもしらないからな。」

フィリップは、神に仮面ライダーの事を説明し、その主人公の事についても説明した。でも神にはイマイチ分かっていないようなので、フィリップは自分が呼んでいた「仮面ライダー事典」というのを貸して読ませた。

士「こんどは、お前が行けよ。私立探偵なんだから情報でもくれてやればいいだろ――！」

士がキレたのが、久しぶりの事だったのだが、翔太郎たちは全く気にしないのだ。

フィリップは、神に仮面ライダーの事について、熱く教え、翔太郎はいつもどおり、タイプライターで、今日の事について書いていた。

翔太郎「士！？何か言ったか？フィリップ何か言ったか？」

フィリップ「僕は何も言っていない。士じゃないのかい？？」

と2人で会話を勝手に進めているという事実。翔太郎たちは全く士の事を気にせずに、会話を進めてしまっているため、士の怒りを余計を買ってしまう。

士「俺！出てくる！！！」

ああ〜と声が出そうになる。神・・・だけど一応我慢する。

士は写真館から小高い丘の上にある、公園の樹齢1000年は超えているであろう桜の木にのぼり、ゆっくりと昼寝体制に入る。

写真館・・・・・・・・・・

翔太郎「まあ、士は放っておいたら、必ず帰ってくるはずだ。だから神は次の世界に行く準備をしたほうがいい。」

と神の不安をなくそうと頑張る翔太郎。神にはその効果は効いているのか分らないのは本当だけど・・・

フィリップ「神は、今日は自分の家へ帰れ！翔太郎の言ったおりにしたほうがいい。急に出発する事もあるからな。」

フィリップの言葉を聴き、神は一旦、家に帰ってから、2時間後ぐらいには戻ってきた。

神は、衣服や食料などを持ってきた。だけど、食料は写真館にいくらでもあった。

そんなことも全くもって知らない神・・・だから、あたりまえのことだけどね！君は本当の事をしただけだ・・・

まあ、そういうことはおいといてほしいとこだな・・・

翔太郎「神！帰ってきたのか！それならそうと行ってくれれば準

備をしていたのにな・・・」

フィリップ「土はどうせ戻ってくる！」

と凄い宣言しているフィリップなのであった。翔太郎は、フィリップの話を聞いて、納得しているのか！頷いている。

翔太郎「土に連絡してみるか？たぶん、あの丘にいるんじゃないのか？あいつのことだからな！」

翔太郎は土のいる所を的確に当ててしまった。そのこと土という
と????????

<ハクシヨン!!!!>

と大胆にも、凄く大きくしゃみをしてしまった土。誰かに噂を
されたとは全く思っていないらしい。!

土「風邪でもひいたかな??いやちがうな?」

とこんな風に迷っている。大人気ないという言葉は似合わないが、
そういうしかないと思う。

城戸真司と対面！？

龍騎の世界の仲間をチョイス

龍騎の世界にはいっぱい仮面ライダーがいることはご存知だろう。しかし、全員優しい心を持ったものとは限らない。それに連れて行けない。

龍騎とナイトは完全に決定されているが、そのほかどんな奴がいるのかも知らないのだ。土以外はな

分かっているわけが無い。わかっていたらそれはとてもいい事なのだが、神にも協力してもらわなくてはならないな。

光写真館・・・・・・・・

神「今日からここが、俺の住む家ですか？」

土「まあ、そんなとこだな。」

ともと影楼「神の質問に、そっけなく答え、冷静に回答を済ませている。

そんな、土を見て、翔太郎はやっぱり「そっけない」とおもい、ため息をつくのであった。

翔太郎はいつも土が座っている席にすわり、土はずっと立っている。神は写真館の中を見て周り、フィリップいつもと変わらず、本を読みふけていた。しかし、興味があるものときだけは、ホワ

イトボード一面にその情報を書き写す。

ただ、それだけのことだ。

翔太郎「そういえば、神の事より、城戸真司君の事はどうするんだよ！……総司のときみたいにいつぱい月日がかかってもしらないからな。」

フィリップは、神に仮面ライダーの事を説明し、その主人公の事についても説明した。でも神にはイマイチ分かっていないようなので、フィリップは自分が呼んでいた「仮面ライダー事典」というのを貸して読ませた。

士「こんどは、お前が行けよ。私立探偵なんだから情報でもくれてやればいいだろ！……!?」

士がキレたのが、久しぶりの事だったのだが、翔太郎たちは全く気にしないのだ。翔太郎たちは単なる喧嘩とだと思っているらしい。

フィリップは、神に仮面ライダーの事について、熱く教え、翔太郎はいつもどおり、タイプライターで、今日の事について書いていた。

翔太郎「士！？何か言ったか？フィリップ何か言ったか？」

フィリップ「僕は何も言っていない。士じゃないのかい??」

と2人で会話を勝手に進めているという事実。翔太郎たちは全く士の事を気にせずに、会話を進めてしまっているため、士の怒りを余計を買ってしまう。

士「俺！出てくる！！！」

ああ〜と声が出そうになる。神・・・だけど一応我慢する。

士は写真館から小高い丘の上にある、公園の樹齢1000年は超えているであろう桜の木にのぼり、ゆっくりと昼寝体制に入る。

写真館・・・・・・・・・・

翔太郎「まあ、士は放っておいたら、必ず帰ってくるはずだ。だから神は次の世界に行く準備をしたほうがいい。」

と神の不安をなくそうと頑張る翔太郎。神にはその効果は効いているのか分らないのは本当だけど・・・

フィリップ「神は、今日は自分の家へ帰れ！翔太郎の言った通りにしたほうがいい。急に出発する事もあるからな。」

フィリップの言葉を聴き、神は一旦、家に帰ってから、2時間後ぐらいには戻ってきた。

神は、衣服や食料などを持ってきた。だけど、食料は写真館にいくらでもあった。

そんなことも全くもって知らない神・・・だから、あたりまえのことだけどね！君は本当の事をしただけだ・・・

一方、士はというと！?!?!?・・・・

士は公園から、その足のままで、城戸真司がいる、編集社に行った。

なぜかは誰にも分からない。それは、士しか知らない事なのだからな！！

そんなことは、全く持つてどうでもいいことなのだが・・・！？

編集社で士はずっと城戸と話をしていた。

なんのはなしかというと、本題に戻り「ショッカーが日本を攻めてくる」というふうに、少々大胆な嘘をつき、城戸を本気で仲間に入れようという作戦だ

そんなことも知らない翔太郎たちはいま、家にのんびりしているに違いないと思う士。

士「で、お前は仲間になるのか！？ならないのか！？どっちなんだ！？」

とさらに城戸につめより、さらに追求をする。それ城戸は答えようとしないうと迷っているようだ。

士「まあ、俺たちが全員倒したとしても、お前には罪悪感が残るだけだろうな。」

罪悪感・・・おれはこのままでいいのか！？本当に助けなくてもいいのだろうか・・・

と城戸はこんな風に迷っているらしいのだ。

士「まあ、どっちでもいいが、答えは今度聞きに来るそれまでに答えを出しておけ。」

といい、士は足早に編集社を去っていったのであった。

写真館・・・・・・・・

そして、この日は士は帰ってこなかった。翔太郎は朝起きたと単に士を探しに行ったのだから、結構心配はしていたのだろう。

士は翔太郎に見つからず、勝手に写真館に帰ってきた。フィリップは何も言わず、神はフィリップの助手みたいに働いている。

そして翔太郎が帰ってくると!?

翔太郎「で!? 城戸と話をしたんだろうな!？」

士「当たり前が決まっているだろう。」

ちょっと日本語がおかしい気がするんだけどね・・・・!? どうでもいいことだな。

翔太郎は少し安心した様子で言ったようだ。

このごろ、信頼関係が不安定だったが、これからドンドン信頼関係を元に戻していけば言いという、士の思いだ。

翔太郎「まあ、返事はどうせもらえなかったんだろうけどな。」

なぜ、それが分かったのか、これが私立探偵！？いや親友って
うものなのか！？いや字が違うかもしれない。神友なのか！？

どうでもいいことだな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4549q/>

仮面ライダーw×ディケイド ～平成オールライダーvs大ショッカー

2011年11月17日17時02分発行